

平成 19 年度 事業報告

平成 20 年 5 月 21 日
主任研究員 大田浩右

1. 事業実施概要

本年度は、平成 18 年度に引続き、睡眠障害研究、脳血管障害研究、介護予防研究の 3 本柱で事業を行った。

○ 睡眠障害研究

在宅簡易ポリソムノグラフによるいびき・睡眠のスクリーニング調査、虚弱高齢者のアクチグラフによる生活リズムの実態調査、睡眠環境の調査、快眠システムの開発、交代勤務者の睡眠満足度について取り組んできた。これらの成果については、平成 20 年度の当該分野の学会、雑誌等で公表する予定である。また、平成 20 年 4 月より、睡眠医療の第一人者である広島大学大学院総合科学研究科 堀忠雄先生が睡眠研究所所長に就任され、今後さらに活発な研究事業が実施されると考えている。平成 20 年度は、大規模な高齢者の睡眠実態調査を計画しており、この研究課題について、平成 20 年度 厚生労働省 老人保健健康増進等事業に助成を申請中である。研究以外の活動としては、国内の代表的研究者を招聘し、睡眠研究会を開催した。リビング福山や、経済レポートといったメディアを通じて、市民の睡眠に関する啓蒙事業も積極的に行っている。(別紙添付資料にて報告)

○ 脳血管障害研究

脳神経センター大田記念病院と協同し、脳卒中および血管内治療に関する治療データを統計的に分析した。研究成果は、日本脳卒中学会等の国内学会、およびアメリカニューオーリンズで開催された International Stroke Conference 等の国際学会で発表された。今年度も引き続き、これらの活動を行っていく予定である。

また、年度末には、血管内治療についての知識普及、啓蒙を目的とした、脳神経センター大田記念病院・大田慎三医師による脳血管内治療の症例集「人にやさしい脳血管内治療」を発刊した。

○ メディカルフィットネス渋谷を研究フィールドとした介護予防に関する研究

平成 17, 18 年度に引続き、厚生労働省 老人保健健康増進等事業の助成を受けて実施した。平成 19 年度は、全国にあるメディカルフィットネスを対象に、施設概要、行われている指導、運営上の困難点などに関するアンケート調査を実施した。加えて、メディカルフィットネスの運動指導者を養成するためのテキストブック、DVD を作成した。これについては、別添の事業報告書としてまとめた。

2. 業績

原著論文

- 1) Ota K, Ota A and Kitae S. Analysis of the Sleeping Habits of Young Children in Relation to Environmental Factors and Psychological State. *Sleep and Biological Rhythms*. 2007; 5(4): 284-7.
- 2) Hagiwara A, Ito N, Sawai K, Kazuma K. Validity and reliability of Physical Activity Scale for the Elderly (PASE) in Japanese elderly people. *Geriatrics and Gerontology International*. (in press)
- 3) 宮下光令, 秋山美紀, 落合亮太, 萩原章子, 中島孝, 福原俊一, 大生定義神経内科的疾患患者の在宅介護者に対する「個別化された重みつき QOL 尺度」SEIQoL-DW の測定. 厚生指標, 2007;55(1):9-14.

学会発表

- 1) 宗田史江、長谷川理香、矢田貝知恵、大田章子、弓手都. 第 33 回 日本脳卒中学会総会;2008 Mar 20-22 ; 京都, 日本
- 2) 大田浩右、中津輝郁、畑野展子、森 美幸、福嶋朋子「急性期軽症脳梗塞患者の睡眠時無呼吸に関連する因子の検討」第 32 回 日本睡眠学会総会;2007 Nov 7-9;東京
- 3) 福嶋朋子、大田慎三、萩原章子、大田浩右「急性期脳卒中患者の発症 3 ヶ月後転帰に関連する因子について」第 49 回日本老年医学会学術集会;2007 Jun 20-22;札幌
- 4) 太田康之、高松和弘、池上雅美、竹田育子、福嶋朋子、大田泰正、後藤勝彌「当院での超急性期脳梗塞における tPA 治療の現状」第 14 回福山医学祭;2007 Nov ;福山
- 5) Ohta Y, Fukushima T, Takamatsu K, Ikegami S, Takeda I, Ota T, Goto K 「Efficacy Of A Free Radical Scavenger, Edaravone, On Acute Lacunar Infarction」 International Stroke Conference ; Feb 20-22, 2008 ; New Orleans, LA
- 6) Ota S, Fukushima T, Sato M, Suzuki S, Goto K. ” Feasibility and effectiveness study of intraarterial colforsin daropate hydrochloride (CDH) for vasospasm after aneurysmal subarachnoid hemorrhage (SAH)” The 9th WFITN 2007; Sep 9-13,2007; Beijin, China
- 7) 福嶋朋子、大田浩右、大田泰正、高松和弘「急性期脳卒中患者における「早期来院」の認識について」第 33 回日本脳卒中学会総会;2008 Mar 20-22;京都
- 8) 池上聡美、高松和弘、竹田育子、太田康之、高橋幸治、大田泰正、福嶋朋子、後藤勝弥「当院での t-PA 症例の慎重投与項目投与までの時間と転帰について」第 33 回日本脳卒中学会総会;2008 Mar 20-22;京都

- 9) 太田康之、高松和弘、池上聡美、竹田育子、福嶋 朋子、大田泰正、後藤勝弥、大田浩右「急性期ラクナ梗塞におけるエダラボンの有用性」第33回日本脳卒中学会総会;2008 Mar 20-22;京都
- 10) 松下珠美、福嶋朋子、萩原章子、大田慎三、大田浩右「脳神経センター大田記念病院における75歳以上患者に対する急性期脳血管内治療の有効性」第49回日本老年医学会学術集会;2007 Jun 20-22;札幌
- 11) Shinzo Ota, Tamami Matsushita, Tomoko Ota, Satoshi Kobanawa, Kazuyuki Tsuchida, Yasue Tanaka, Tomoko Fukushima, Katsuya Goto, Kosuke Ota「Outcome of Endovascular Treatments for Atherosclerotic Acute Ischemic Stroke in Our Hospital」The 2ed International Intracranial Stent Meeting :Apr 28-30, 2007; Kyoto,
- 12) 大田慎三、土田和幸、佐藤倫由、佐能昭、小埜聡司、中崎清之、田中康恵、松下珠美、後藤勝弥「脳神経外科領域における神経内視鏡手術の有用性」第14回福山医学祭:2007 Nov ;福山
- 13) 大田慎三、小埜聡司、田中康恵、佐藤倫由、土田和幸、中崎清之、松下珠美、後藤勝弥、大田浩右「当院における破裂能動脈瘤に対する脳血管内治療の現状—再治療を中心に—」第37回日本脳卒中の外科学会;2008 Mar 20-22;京都
- 14) 佐藤倫由、大田慎三、小埜聡司、土田和幸、中崎清之、田中康恵、松下珠美、後藤勝弥、大田浩右「脳血管内治療 first 時代における Cripping 術の重要性」第37回日本脳卒中の外科学会;2008 Mar 20-22;京都

3. 研究報告書

大田浩右、松崎主税、大田章子. 平成19年度老人保健健康増進等事業報告書 医療機関に併設された運動施設（メディカルフィットネス）の実態調査および運動指導者養成事業. 2007

4. 研究助成など

高齢者保健医療福祉助成

○広島大学医学部（担当 松本昌泰氏）に対し、500,000円の研究助成をした。

研究課題「ワルファリン内服患者における脳微小出血と再発脳卒中の関連についての検討」

○滋賀大学睡眠講座に対し、300,000円の助成をした。

○第5回日本神経疾患医療福祉従事者学会（2007年8月31日～9月1日:福岡国際会議場）に対し、100,000円の助成をした。

○虹の会に対し、450,000円の助成をした。

5. 健康啓発事業

別紙添付資料参照

掲載記事の内容をまとめ、平成20年度には雑誌として出版予定している。